2023 年 9 月　JICA　月次レポート

<u>生理で学校に行けなくなる女子学生の教育環境改善事業</u>

<活動状況>

1. ラジオトークショーの実施
2. 女子の教育の重要性と布ナプキン利用者の増加を目的としたラジオスポットメッセージ（コマーシャル）の放送
3. 各県の対象校のモニタリングの実施
4. 保護者を対象とした啓発活動（Lwadda 初等学校　ワキソ県）
5. Happy-Pad プロモーションセンター（ブタンバラ県）
6. JICA が開催した TiCAD cup 2023 での月経時の衛生管理活動の実施

1. ラジオトークショーの実施

ムベンデ県では 9 月 28 日にチバリンガ準郡の Luna FM より 1 時間のラジオトークショーを実施し、モニタリング訪問の際に課題があった学校に対しては必要な改善に努めるよう呼びかけ、順調に活動が進められている学校は高く評価した。保護者へはナプキンがないことを理由に学校を欠席することがないよう、学校での布ナプキン作製活動に必要な生地などの材料を提供するよう協力を呼びかけた。

ラジオトークショーで保護者に語り掛けるプロジェクトオフィサー

ワキソ県では 9 月 30 日 19 時～20 時に Tiger FM より 1 時間のトークショーを実施した。SORAK 代表は事業の概要やこれまでの成果を紹介した後に、布ナプキン作製活動を継続していくためには布地などの材料の確保が必要であることを訴え、保護者や関係者に協力を求めた。また、費用対効果が高く、環境にも優しい布ナプキンをこれまで以上に活用していくようにリスナーに奨励した。

Tiger FM でラジオトークショーを行う SORAK 代表

In Butambala

ブタンバラ県では 9 月 26 日に Voice of Butende、9 月 30 日に Voice of Kikambwe よりラジオトークショーを実施し、主に布ナプキンを使用すること、適切な月経管理を継続することについて話した。

ブタンバラ県のプロジェクトチームとラジオプレゼンター

2. 女子の教育推進、布ナプキン利用者の増加を目的としたラジオスポットメッセージ（コマーシャル）の放送

月経時の衛生管理、女子生徒の教育、生理用布ナプキンに関するラジオスポットメッセージを以下の通り放送した。

- ムベンデ県：Luna FM（1 日 6 回）
- ワキソ県： Voice Kiryagonja（1 日 10 回）
- ブタンバラ県：Voice of Butende（8 回）、Voice of Kikambwe（8 回）（各早朝 4 回、夜 4 回）

3. 対象校においてモニタリングの実施

ムベンデ県では 9 月 26 日、27 日に対象校を視察訪問した。今回のモニタリングの目的は布ナプキン作製や月経時の衛生管理に関するカウンセリングセッションなどの活動の進捗状況を把握することであった。学校はナプキン作製の活動により、ナプキン作りのスキルが着実に上達し、ナプキンを作製できる生徒数が増えてきていることから、活動に感謝を示した。生徒の保護者の中に布ナプキン作製に使用する材料購入に協力的でない家庭があり、そのような課題に関しても、協力を得られるように取り組んでいく必要がある。

カウンセリングセッション中の月経時の衛生管理クラブ（Christ the King 初等学校）

ナプキン作製活動の様子（Kasasa 初等学校）

ナプキン作製活動の様子（Kiyita 初等学校）	ナプキン作製活動の様子（Ikula 初等学校）
ナプキン作製活動の様子（Gwanika 初等学校）	ナプキン作製活動の様子（Katega 初等学校）
ナプキン作製活動の様子（CAWODISA 初等学校）	月経時の衛生管理クラブ（Kabowa 初等学校）

ワキソ県では 9 月 22 日に Maganjo UMEA 初等学校で布ナプキン作製セッションが行われ、プロジェクトオフィサーが出席した。材料は校長が提供し、教員が監督する中で、月経時の衛生管理クラブが主体となってセッションを実施した。男子生徒、女子生徒のどちらもが学ぶ意欲を見せていた。

生地を裁断している生徒	縫製を主導する男子生徒	ミシンの使い方を教え合う女子生徒

ブタンバラ県では 9 月 26 日、27 日、30 日、31 日の 4 日間に対象校のモニタリングを実施した。モニタリング活動を通して、トイレや洗面所などの衛生施設がきちんと手入れされ、清潔且つ女子生徒が快適に使用できる状態に保たれていることが判明した。月経時の衛生管理クラブはミシンが故障するなどの問題はあったが、トレーニングで習得したスキルや知識を積極的に応用していた。また、学校カリキュラムにも取り入れられた生徒のトレーニングや生徒の監督などの日々の業務を各校がきちんと実行できていたことも 10 校のモニタリングや評価を通して明らかとなった。次の訪問時にまた効果的な進歩がみられるよう、活動の継続を奨励した。

ブタンバラ県チーム事務員の Winnie 氏と月経時の衛生管理クラブ（Kitagobwa 初等学校）	月経時の衛生管理クラブが衛生に関する寸劇を行っている様子（Nkokoma 初等学校）	生徒たちがブタンバラ県チームリーダーの Twaha 氏を歓迎している様子（Kayenje 初等学校）
モニタリング活動後の月経時の衛生管理クラブと校長（Bule 初等学校）	月経時の衛生管理クラブ、教員、ブタンバラ県チーム事務員 Winnie 氏の集合写真（Butende Umea 初等学校）	モニタリング活動後の月経時の衛生管理クラブ（Kiwala Umea 初等学校）
月経時の衛生管理クラブ、教員、ブタンバラ県チーム事務員 Winnie 氏が意見交換を行っている（Lwamasaka Umea 初等学校）	モニタリング活動中の月経時の衛生管理クラブ、Christine 氏、男性教員、チームリーダーTwaha 氏（Ntolomwe Umea 初等学校）	月経時の衛生管理クラブ（Butalunga 初等学校）

布ナプキンの作製方法を学ぶ生徒（Nkokoma 初等学）	布ナプキンの作製方法を学ぶ生徒（Butende UMEA 初等学校）	ブタンバラ県のチームリーダーに完成した布ナプキンを見せる生徒（Lwamasaka UMEA 初等学校）

4. 保護者を対象とした啓発活動（Lwadda 初等学校 ワキソ県）

9 月 15 日、Lwadda C/U 初等学校で実施された保護者会に出席し、月経時の衛生管理について 20 分の啓発活動を行った。月経時の衛生管理において子どもたちをサポートすることの重要性や、父親が関与していくべきであること、ナプキン作製に必要な材料が不足していることなどを重点的に保護者に訴えかけた。

保護者に語り掛ける SORAK 代表	プレゼンテーションに反応を示す保護者

5. Happy-Pad プロモーションセンター（ブタンバラ県）

ラジオトークショーで宣伝をした効果もあり、9 月はトレーニングを希望する受講生が増加したが、希望者数は一定数ではなく日によってばらつきがある。ナプキンを販売し得た収益を材料費に充てることができたため、9 月は 8 月よりも多くのナプキンを生産することができた。また、新たに考案した販売方法として、選抜した 7 名のトレーニング受講生に 2～3 枚のナプキンを渡し、市場での販売を委託した。そこで得た市場での声によると、多くの人が喜んで購入したいが 1 ～ 2 つのナプキンに対し、6,000～7,000 シリング程のより低価格での購入を希望しているというフィードバックを受けた。お金は後払いということでナプキンを渡してきたもの、また販売できずに持ち帰ってくる者もいた。

プロモーションセンターでは、9 月中に 70 名に対しトレーニングを行い、98 枚のナプキンを生産したが、販売はなかった。(3 月からの累計 生産 1,119 枚、寄付 100 枚、販売 442 枚)

Happy-Pad プロモーションセンターでの技術トレーニング

完成したナプキンを見せるトレーニング受講生	布ナプキンを見せているトレーニング受講生

6. JICA が開催した TiCAD cup 2023 での月経時の衛生管理活動の実施

9 月 4 日にサッカーのトーナメント TiCAD cup 2023 が Jinja の FUFA Technical Center Njeru で開催され、様々な地域から 6 つのグループが参加した。ブタンバラ県のプロジェクトチームがこれに参加し、参加者に対して月経時の衛生管理のトレーニングを実施できる機会を得た。このような機会にブタンバラ県のプロジェクトチームを招待し、プロモーションセンターで生産したナプキン 200 枚を購入してくださった JICA に感謝をしている。

「月経は正常」というテーマの下、65 名の参加者に対して質問形式でワークショップを行った。参加者たちは楽しみながら内容を受け止め、積極的に参加した後、最後にナプキンを配布し活動を終えた。
活動を通して広がりつつある、Happy Pad がもつ素晴らしいメッセージを今回 48 名以上の参加者にも伝えることができたことは非常に重要な節目であり、さらにこのナプキンを受け取った 48 名が Happy Pad の広告塔となってくれることを期待しつつ、より広範囲に知ってもらう機会ともなった。

TiCAD CUP 2023	月経時の衛生管理の資料を配布する Kigongo 氏と JICA 職員	ワークショップで挨拶を交わすブタンバラ県チームと JICA 職員
JICA 職員がトーナメント参加者に対して月経時の衛生管理のトークショーを行っている。	JICA 職員が happy Pad の包装を点検している。	happy Pad 譲渡後のブタンバラ県チーム、JICA、トーナメント参加者

主な気付き

- 作製した布ナプキンを生徒間で複製することで、より多くの布ナプキンの作製が行われている。

事業全体の効果的な影響

- ラジオトークショーのリスナーは当事業の活動に感謝を示した。（ワキソ県・ムベンデ県）
- 保護者達は事業に感謝すると同時に、月経中の女子生徒をサポートしていくことに同意してくれた。（ワキソ県）
- Maganjo UMEA 初等学校では、月経時の衛生管理クラブが活動できる場所がないにもかかわらず、校長、教員の協力のもと活動を継続していた。（ワキソ県）
- Buwambo 初等学校、Lwadda 初等学校、Jinja Kalori 初等学校の壊れたミシンは全て修理されていた。
- ほとんどの生徒が使い捨てナプキンの購入にお金をかけずに済むようになった。

課題

- Maganjo UMEA 初等学校では活動場所の確保が課題となっている。現在は木の下で活動しており、雨季の間はミーティングなどの活動ができない日もあった。
- 布ナプキン作製に必要な生地などの材料不足がほとんどの対象校における大きな課題である。

教訓

- ミシンは使用頻度が高く度々故障してしまうため、修理ができる常勤の技術者が必要である。

提案

- 布ナプキン作製に必要な材料を確保できるように入手方法を模索すべきである。
- ミシンを修繕できる技術者を雇いミシンの故障に対応できるようになれば、より多くの生徒がより多くのナプキンを作ることができるようになるため、各校を巡回できる常勤の技術者を雇用すべきである。
- より多くの生徒が布ナプキンの作製を行えるように、ミシンを増やす方法を学校は検討する必要がある。
- 他の学校の実践を学べるように、他県における対象校の訪問を行っていくべきである。